

葛飾 花いっぱいのもちづくり

話／青木克徳氏（葛飾区長）

取材日／2021年1月27日
写真／葛飾区（P20）、編集部（P21）



右上／葛飾区役所本庁舎に設置されたフラワーメリーゴーランド（特許取得済）。季節の花で彩られます 右下／区民団体『上小松四季の会』による花壇づくりの様子 左上／葛飾区が発表した『花の都プロジェクト』シンポジウム 左下／フラワーメリーゴーランドの花のお手入れ（JR金町駅前）



青木 克徳（あおき かつのり）
昭和24年、岐阜県生まれ。
昭和42年4月、葛飾区役所入
庁。平成21年12月、葛飾区
長就任。現在3期目。

——本日はよろしくお願ひいたします。早速ですが、葛飾区ではどのような形で区民が植物と親しむ機会を作っているのでしょうか？

葛飾区には現在、区民の団体がお手入れをしている街中の花壇が全部で約150ヶ所あります。昔から花好きの方が多かったのですが、平成25年に葛飾区の基本計画として花いっぱいのもちづくりを目指す方針が固まって以降、花壇の数や活動団体も大きく増えましたね。

新小岩など駅周辺等を中心に葛飾区は建物が多く、山のない平坦な土地で、建物の陰に隠れて公園の緑なども見えなくなりがちでした。そこで、区として緑視率を上げるための取組を開始。区全体が川（荒川や江戸川など）に囲まれているので、河川敷でも植物が多く見られるように工夫しています。また、亀有駅周辺の再開発に際し、新しく公園を作るなど、より人の集まりやすい場所で花や緑が見られるようにしています。この「見えやすい」ということが、区民の皆さんに植物を身近に感じてもらう上で一番重要だと考えています。

——葛飾区では「緑化」手法の中で特に花を植えることを重視されていますね。これは何か理由があるのでしょうか？

温暖化対策や緑被率のアップだけを考えれば、草木で緑化する方が効果的かもしれません。しかし人が見て「きれいだな」と感じたり、あるいは心とんだりする効果を持つのはやはり「花」ではないでしょうか。花を見て、嫌だと感じる人はいないはず。区民の皆さんにもまず花を愛でるところからスタートし、徐々に「自然」に興味を持っていただければ幸いです。また、街中に花壇が増えたことで、犯罪数やゴミのポイ捨てなどが減少するといった効果も出ています。

そんな花を立体的により視界に入りやすい形で魅せる手段として、葛飾区有志が開発したのが『フラワーメリーゴーランド』です。夏でも冬でもポットを差し替えるだけで花を変えられる優れもので、今では東京五輪開催を見据えた東京都の『花の都プロジェクト』から波及して新宿やお台場など都心部を中心に様々な施設にも設置され、好評をいただいております。もちろん、区役所本庁舎などの区内の公共施設でも活躍中です。

——フラワーメリーゴーランドを始め、区役所も花いっぱいですね。働く職員の方々の意識も変わられたのでしょうか？



上／葛飾区本庁舎にある『緑と花のいこいガーデン(屋上緑化見本園)』。区民有志がデザイン・植栽した箱庭もあります 下／同ガーデンで開催される『サロン・ド・花いち』では、葛飾区より区民へ花苗の無償提供が行われました(2021年3月28日)



江戸川柴又河川敷でのチューリップ観賞イベントにて。球根は新潟県五泉市より提供(2021年3月28日)

「——ところで、花壇づくりに取組む方にはやはり高齢の方が多いように感じます。若者や学生など、新しい人々を花の世界に呼び込むために葛飾区ではどのような活動がされているか教えてください。」

確かにボランティアとして街中の花壇で活動されているのは、高齢の女性層が多い気がします。これらの花壇について、葛飾区では毎年『かつしか花いっぱい』の花壇コンクールを実施しており、区内の美しい花壇の表彰をしています。今後は個人邸の庭でも同様のコンクールを

実は区の職員の中にも花好きの人は多く、ガーデニング部が存在します。役所敷地内の花壇などで植え付けを行っており、区としても苗を提供するなどしてバックアップしています。

そうして職員がスキルアップすることで、今後は区民の皆さんがガーデニングを始めたいと思った時に、区役所として適切な情報を提供できるようにしたいと考えています。ただポット苗や土を配付するだけでは、初めての方はどうしたらいいかわからないでしょうから、具体的なアドバイスは必要不可欠。アドバイスを受けてうまくいけば、皆さんにも「次はこれに挑戦してみよう」という気持ちが起こるはずです。植物という生きものを育てる楽しさを、ぜひ多くの区民の皆さんに実感していただきたいものです。

「——青木区長、ありがとうございます。」

「ながら花壇に触れる」という方向性ではないのかと私は考えていますし、区としてもそうした活動を応援したいです。

そして、ゆくゆくは自宅の庭で花を育てる方がもっと増えてくれれば幸いです。大抵の庭は人が通る道路から見えない位置にありますので、一般家庭での庭づくりが盛んになれば、より花いっぱい美しい街へと繋がっていくことでしょう。」

開催できればと考えています。先程お話しした通り葛飾区では元々ガーデニングを楽しんでいる方が多いのですが、個人の趣味としてやっている庭づくりを、コンクールという形で広くPRする機会を設けることで、意欲を高めてもらいたいという想いがあります。そのためにもまずは花に興味を持ってもらうことが必要です。

昨年はコロナ禍により、区民の皆さんがなかなか花壇で活動できなくなってしまうこともありましたが、日本は外出が「禁止」されているわけではありませんが、買い物や出勤がある程度許容されている中、花壇づくりのような趣味活動だつて「やりたい」という声が多数あがっています。全く外に出なくては、それこそ心身に悪影響を及ぼしてしまいがちなもの。そして花には気分を高めたり、落ち着かせたり、ストレスを緩和してくれる効果があることを、私自身も庭仕事の中で実感しました。それぞれが「感染症対策をしながら花壇に触れる」という方向性ではないのかと私は考えていますし、区としてもそうした活動を応援したいです。」